二〇二〇年四月一七日

若葉萌ゆ鎮守の杜に鳥語降る　智恵子
ままごとのお客はママよ庭温し　菜々
フラスコでコーヒーブレイク春の午後　ぽんこ
草取りの夫に教える名草の芽　なつき
久に訪ふ延命地蔵花は葉　たか子

二〇二〇年四月一六日

山頂を守る老幹の八重桜　せいじ

二〇二〇年四月一五日

雨粒の光とどめて柳の芽　はく子
昼食に帰らず夫は畑返し　明日香
切り難き春愁というふ長電話　満天
バスタブへ春愁の身を深々と　菜々
左右にゆれ笑つているよチューリップ　ぽんこ

二〇二〇年四月一四日

花吹雪鍬休めをる老夫婦　かかし
ふるさとの味噌こそよけれ木の芽和え　菜々
落椿城址にのこる隠れ道　なつき

二〇二〇年四月一三日

黒猫の瞳の奥に花御堂　素秀
電話でのよもやま話日短　明日香
能舞台絶え間なく舞ふ花吹雪　愛正
媼ひとり座す筍の直売所　せいじ
潮風に落花逆巻くの花の山　三刀

二〇二〇年四月一二日

花吹雪総身に浴びる地蔵かな　愛正

二〇二〇年四月一一日

春愁を払拭せんむと句集読む　満天
一穢無き空皓々と春の望　はく子
こうのとり歩す脚元は川霞　素秀

毎日句会みのる選・二〇二〇年四月一九日